

文芸書



彼岸花が咲く島 李 琴峰/著
記憶を失くした少女・宇実が流れ着いたのは、ノロと呼ばれる指導者が統治し、男女が違う言葉を学ぶ島だった。宇実は島の少女・游娜と少年・拓慈と、この島の深い歴史に導かれていき…。『文藝界』掲載を単行本化。2021 上半期芥川賞受賞作品。

- 佐藤愛子の世界 完全保存版
仮面とおくの遠巷説百物語
婿どの相逢席
あなたにオススメの長い一日
万事快調(オール・グリーンズ)
invert 城塚翡翠倒叙集
我が産声を聞きに
一夜の夢(照降町四季 4)
亜ノ国へ 水と竜の娘たち
オーバーヒート
Phantom
兵 諫
水たまりで息をする
ミラーワールド
白 光
もういちど(「しゃばけ」シリーズ 20)
美女の魔界退治
アガワ流生きるピント
霧をはらう
ブランド
星のように離れて雨のように散った
キングダム
チングス紀 11 黙示
願かけ 新・酔いどれ小藤次 2
桜吹雪 新・酔いどれ小藤次 3
姉と弟 新・酔いどれ小藤次 4

- 文藝春秋・編
伊岡 瞬
京極夏彦
西條奈加
本谷有希子
滝口悠生
波木 銅
相沢沙呼
白石一文
佐伯泰英
柏葉幸子
千葉雅也
羽田圭介
浅田次郎
高瀬隼子
柳月美智子
朝井まかて
畠中 恵
林真理子
阿川佐和子
栗井脩介
吉田修一
島本理生
新野剛志
北方謙三
佐伯泰英
佐伯泰英
佐伯泰英

上土幌町図書館ブログでも入荷情報をご案内しています。
<https://horonlibrary.blogspot.com/>



一般書・児童書



新しい子牛の科学 家畜感染症学会/編



感じのいい、大人服 美濃羽 まゆみ/著



青天を衝け NHKドラマ制作班/監修



さいごはおうちで 永井 康徳/著



昭和レコード超画文報 1000枚 チャッピー加藤/著



SDGs時代の森林管理の理念と技術 山田 容三/著



パンダツアー のはな はるか/出版



二平方メートルの世界ではた こうしろう/絵 前田 海音/文

かみしほろ としよかんたより



上土幌町図書館 生涯学習センター1階 ☎2-4634

◆開館時間 10:00~18:00 貸出制限なし(ただしDVDは3タイトルまで)
◆休館日 毎週月曜日・月末日(最後の平日)・年末年始(12月30日~1月5日)

臨時休館のお知らせ

上土幌町図書館では、図書館電算システム更新を9月に実施します。新システム導入後には、インターネットによる蔵書検索を開始します。さらに、貸出中の本は、ネット上で予約ができるようになります。更新前には蔵書点検を行うため、皆さまには大変ご迷惑をおかけしますが、下記の期間を臨時休館とさせていただきます。

臨時休館期間: 9月21日(四)~30日(金)

※この期間に返却期限となる資料は、10月1日以降の返却をお願いします。
※蔵書検索についての詳細は、広報10月号でご案内します。
※臨時休館中は貸出ができません。休館前のご利用をおすすめします。

図書館名画座「巴里のアメリカ人」

図書館映画会では、上映権の付いた作品を上映しています。よって、上映できる映画作品は限られてしまいます。そのような中、後世に残していきたい名画を厳選してお届けします。第1回目は、1952年の第24回アカデミー賞では作品賞を含む6部門を受賞したミュージカル映画の金字塔「巴里のアメリカ人」です。視聴覚ホールの迫力の大画面でお楽しみ下さい。
★上映日時 9月11日(土) 14時開始
★上映作品「巴里のアメリカ人」(上映時間113分)
★上映場所 生涯学習センター2階 視聴覚ホール

「日本百名山」深田久弥氏の名言

百名山を出したとき、私はまだこの山を見ていなかった。実に立派な山であることを、私は登って初めて知った。これは深田氏が昭和46年に出版した「山の憩い」の中で、ニベソツ山について書かれた文章です。ニベソツ山はあの深田氏にそう言わしめた山なのです。登頂されたのは昭和42年で、役場、糠平、三股も登場します。三股に向かう際、「糠平から先は自家用車が通じないため旅館に車を預けて糠平駅に行った」とあります。隔世の感があります。(※道路は開通しており、車の利用は可能でした)

ようこそおはなしの世界へ

- ★お話し
 - ◆日時 9月11日(土) 10:30~
 - ◆内容 お話し「カッコウ」による絵本の読聞かせ・紙芝居・パネルシアター等
 - ◆注意点 マスクをつけてご参加ください



※9月のえほんのトビラは中止いたします ※会場は図書館お話の部屋です。

おすすめの1冊

春夏秋冬ふだんのもてなし 季節料理のヒントとレシピ 植松 良枝

コロナ禍により、家族以外の方におもてなし料理を振る舞う機会が減り、寂しさを感じている方も多いのではないのでしょうか。

「もてなし」という単語を改めて広辞苑で調べてみると、とりなし、つくろい、たしなみ、ふるまい、馳走、等とあります。一説によると、室町時代に発祥した茶の湯から始まったと言われ、大切な人や、客人への気遣い、目配り、心配りをするという意味だそうです。

本書では、季節に合わせた、おもてなしの料理だけではなく、手間暇かけずに作れる毎日の献立や、春はふきのとう、夏は青梅、秋はさんま、きのこなど、旬の素材を生かした季節ごとの手仕事を分かりやすく紹介しています。

コロナが収束し、心置きなく友人知人をおもてなし出来る日を心待ちにしながら、本書を読んでみませんか。

